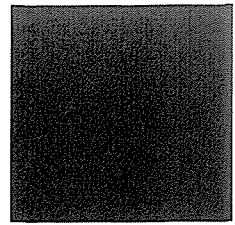


岡山市区づくり推進事業助成申込書
(地域活動部門)



平成31年1月15日

岡山市長 大森雅夫 様

フリガナ トミヤマガックレンゴウチョウナイカイ
 団体名 富山学区連合町内会
 所在地 [Redacted]
 連絡先 [Redacted]
 フリガナ [Redacted]
 代表者 役職・氏名 会長 小橋一郎

※ 提出した申込書の内容が、岡山市のホームページ上で公開されることに同意します。
 ただし、個人情報に関する部分は除きます。

応募分野	(該当の分野を○で囲んでください。) <input checked="" type="radio"/> ア 地域課題解決 イ 地域課題掘り起し <input type="radio"/> ウ 地域計画づくり <input type="radio"/> エ 地域課題解決型の地域組織づくり オ その他
事業名称	地域防災力の向上 ～災害犠牲者を出さない～
事業実施小学校区・地区	富山小学校区
事業実施回数	新規 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 継続 4 回目 / 【H28年度から】

<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・富山学区は、地理的には、東西は東は百間川から西は東山峠までと極めて長細く、南北は北は操山の麓から干拓地を中心とする平坦地となっている。 地域別に見ると操山周辺の地域では、急傾斜地などが多く、山崩れ・土砂崩れ等の土砂災害の危険があり、平坦地地域では、埋立地のため海拔1m以下の所も多く、水害・液状化現象による家屋の浸水・倒壊等の災害の発生が予想される。 ・学区民の防災意識・防災力の向上を目指し、28年度は、学区全体の防災マップを作成し、全戸に配布した。29・30年度は、各町内の特性に合ったよりきめ細かい防災対策に取り組むべく各町内会での防災講習・防災訓練を実施した。また、29年度は福泊川東町内会にて要配慮者に焦点を当てた防災活動に取り組んだ。 ・このような活発な防災活動は学区民の防災意識の向上に効果をあげたものの、福泊川東町内会での防災アンケートでは、平常時の備えについて向上が見られなかった。また、西日本豪雨においては避難指示の発令にもかかわらず指定避難所への避難者は33名であった。学区内で想定される災害についての認識の甘さや、緊急時の情報伝達機能の不備などから、実際の避難行動につながらなかった。学区民の具体的行動を促すより一層の啓蒙が必要である。西日本豪雨の記憶に新しい今こそが、その絶好の機会と言える。 ・地域ごとに特性が異なるため、単位町内会ごとのきめ細かい防災対策が必要だが、1・2年任期で交替する役員中心の活動では、防災についての知識・意識・関心事がまちまちで、学区民の具体的行動を促すところまで至るには、荷が重いことも否めない。 ・富山学区は、昭和40年台後半から昭和50年台にかけて造成された戸建て住宅団地が点在し、高齢化が進行している。今後もさらに高齢者が増え続けることが予想される。高齢者をはじめとする要配慮者の安心安全確保も、重視すべき課題である。
<p>事業の目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●目的 災害犠牲者を出さない防災活動の実践 ●方針 <ul style="list-style-type: none"> ・【自助・近助】自分たちでできることについての啓蒙を愚直に繰り返し、平常時の備え、災害時の行動を促す ・【共助】自助を促すあるいはその調整のために果たすべき役割を明確にし、連合町内会、単位町内会レベルでの体制、仕組みを構築する ・【人材】防災活動を主導するリーダーを育成、組織化する

<p>事業の内容</p>	<p>【重点テーマ】豪雨災害の避難準備段階での緊急連絡網の整備 ～豪雨災害への理解を深め、学区民の適切な避難行動を促す～</p> <p>(1) 豪雨災害への理解を深める【学区民への啓蒙】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想定被害、日ごろの備え、災害時に取るべき行動の啓蒙 ・2019年6月 公民館での集中講習会 ・下半期 単位町内会別講習会（合同開催含む）10回開催 <p>(2) 避難場所の再検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区内の想定被害を再認識し、指定避難所の適合性、企業等との協定、自主避難所、要配慮者に優しい避難場所などの課題検討 <p>(3) 災害時緊急連絡網の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区民の適切な避難行動を促す、一方通行の緊急情報伝達網 連合町内会 ⇒ 単位町内会 ⇒ 学区民 ・2019年6月 【可能な範囲で】暫定緊急連絡試行 まずは機運を盛り上げ、問題点を解決し、全世帯あて連絡網を完成させる ・2020年6月 【全世帯あて】緊急連絡実地訓練 <p>(4) 要配慮者への理解を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職（医療、介護、福祉）を交えた勉強会、意見交換会 ・課題を洗い出し、次年度以降の活動の方向性を探る <p>(5) 学区自主防災組織の立ち上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実効性ある学区内協働体制作り ※2020年4月新体制発足 ・活動を担う防災リーダー認定、委嘱制度作り ※2020年4月より運用 <p>(6) 防災アンケートの定点実施【全世帯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自助への取り組みについて定点観測し、防災活動の成果を数値化 ・3月または4月の町内会総会に合わせて実施ことで、回収率の向上を図る ・アンケートの実施自体が、自助への取り組みについての啓蒙となる
<p>期待される成果・目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災アンケートの年度比較により、平常時の備えなど自助への取り組みが、数字上で向上することを期待する ・防災活動を担う防災リーダーを、3年間で50名育成する（単位町内会に複数人）
<p>企画などの工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムラインの活用 災害の種類（豪雨・台風、地震・津波、火災）、時系列（避難準備、避難行動、避難生活、および平常時）、立場（学区民、隣近所、単位町内会、連合町内会）ごとの取るべき行動、果たすべき役割を明らかにするために、タイムラインの活用する。タイムラインの作成により、課題の全体像が明らかになり、優先順位をつけやすくなるとともに、実効性を上げることができる。 ・防災リーダーの認定、委嘱 防災士育成カリキュラムに準拠した所定の講習を受講した意欲のある有志を、学区認定防災リーダーとして委嘱することで、多岐にわたる膨大な課題に対して、一定の体系的知

	<p>識を持って、継続的に学区の防災活動を主導してもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年間の活動の集大成としての実地訓練実施 <p>年度ごとの重点テーマに基づき、その課題解決のための体制・仕組み作り、学区民への啓蒙を進めたのち、年度末の3月（3. 11）または翌年度の4月・5月（豪雨前）に、1年間の活動の集大成として実地訓練を実施することで、重点テーマに注力し実効性を上げる。</p>
協働する団体等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼小中学校 防災に関する学習、防災訓練に参画する ・ 富山公民館 公民館主催の講習会訓練に協力し、防災に取り組む他、連合町内会の会議・町内会・自主防災会単位の防災講習会・訓練に参画してもらう。広報面では、公民館発行の「とみやまだより」への掲載を依頼。ジュニア防災訓練、キッズ防火防災教室と協働。 ・ 学区防火防災会 学区の防災訓練の実施。連合町内会の実行委員会への参加 ・ 学区社会福祉協議会 高齢者・障がい者対策での協力・支援を得る。 ・ 富山消防団 火災・災害発生時の対応、火災報知器の設置作業の依頼。 ・ 富山電子町内会 学区内への広報、防災関連資料等参考資料の提供 ・ 岡山市役所 防災研修への講師派遣、情報の提供を受ける。 ・ 若松園 ジュニア防災講座での協業。
事業の情報公開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「とみやまだより」による学区全体へのPR ・ 電子町内会ホームページの活用 ・ 公共の広報機関を通して、富山学区での取り組みを広くPRする ・ 連合町内会町内会長会議での町内会長への連絡で意思統一を図る ・ 単位町内会による文書連絡
学区地区への広がり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 要配慮者への対応 <p>高齢者をはじめとする要配慮者への対応については、医療・介護・福祉専門職との協働を要するとともに、個人の機微に関わることでもあり、課題解決の難易度が高い。今年度は専門職を交えて勉強レベルからじっくり取り組み、要配慮者への理解を深めることを目標とする。次年度以降は、人材豊富な大規模単位町内会をモデルとして課題解決を試行し、その成果を学区全体に展開する。</p>
前年度からの見直し拡充点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 従来、第2期の区づくり推進事業としていたが、その準備は上半期から着手していた。この実態に合わせて、1年間にわたる活動として第1期の区づくり推進事業とする。 ・ 防災活動を主導するリーダー育成の仕組みを作り、未設置であった学区の自主防災組織を立ち上げる。この学区の自主防災組織を核として、連合町内会・単位町内会・各種団体・公民館・幼小中学校等との幅広い連携・協業体制を再構築することにより、防災活動の実効性を高める。 ・ 29年度福泊川東町内会で取り組もうとした体系的・継続的な防災活動を参考に、連合町内会・単位町内会で役割分担しながら、学区全体で展開する。 <p>地域の特性に応じた実効性ある防災活動を推進する主体は単位町内会であるが、単位町内会が特性に応じた活動に注力できるよう、学区全体に共通する事項、行政・外部団体の協力を必要とする事項、専門性を要する事項などは、連合町内会が担うものとする。</p>

次年度以降の予定	<p>① 次年度以後の活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の重点テーマである「学区民への一方通行の緊急情報伝達網整備」をベースに、連合町内会・単位町内会・学区民間の「双方向の緊急連絡網整備」を重点テーマとする。また、別紙「中長期的な取り組み課題」より、各年度のテーマを定めて、4・5年かけて継続的に活動していきたい。 <p>② 資金の確保について</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 次年度も区づくり推進事業を申請する予定</p> <p><input type="checkbox"/> () 年後には、自己資金を確保して地域の独自展開をしていきたい。</p> <p>資金確保の具体的な方策：</p>
その他PRしたい点	

事業スケジュール (重要なイベントのみ記載、詳細は別紙「事業スケジュール詳細」参照)

月日	活動内容
4月	・ 防災アンケート実施
5月	・ 暫定緊急連絡網試行 ・ 要配慮者勉強会
6月	・ 暫定緊急連絡網試行 ・ 豪雨災害講習会 (学区開催)
7月	・ 防災アンケート結果全戸配布 ・ 要配慮者勉強会
8月	
9月	・ 要配慮者意見交換会
10月	・ 豪雨災害講習会 (町内会開催) 全10回実施
11月	・ 要配慮者意見交換会
12月	・ ジュニア防災講座
1月	・ 要配慮者意見交換会
2月	・ 学区防災(防火)訓練
3月	・ 防災アンケート用紙全戸配布 ・ 要配慮者意見交換会

収 支 予 算 書

◆ 収 入

単位:円

項 目	前年度決算 (決算見込可)	予 算	備 考
岡山市補助金	40,700	120,000	(100円未満の端数切捨て)
実施団体負担金	40,700	120,000	
参加者負担金			
協賛金			
寄付、他収入			
計	81,400	240,000	

◆ 支 出

単位:円

費 目	前年度決算	予 算	備 考
消耗品費	14,600	32,400	印刷機による延べ用紙枚数 31,700×@0.7=22,190円、 ほか印刷用紙、バインダー、 インク等 10,210円
食糧費	54,800	55,200	打ち合わせ時のお茶代 延べ人数 690×@80=55,200 円
印刷製本費	12,000	122,400	コピー代 延べ枚数 8,840× @10=88,400円、印刷機印刷 代 延べ枚数 31,700× @1=31,700円、印刷機製版 代 延べ枚数 46× @50=2,300円
原材料費		30,000	学区防災(防火)訓練での炊 き出し訓練の食材、使い捨 て容器など
			延べ数の根拠は別紙「予算根拠」参照
計	81,400	240,000	

◆概算交付の要否(いずれかに○をしてください)。(補助金額が20万円を超える場合のみ)

補助金の概算払いを	希望する	希望しない
-----------	------	-------

※「希望する」場合は、その理由を具体的にお書きください

注①：前年度決算額が確定していない場合は、見込み額を記入してください。

注②：支出の費目は、消耗品費・食糧費・印刷製本費・光熱水費・通信運搬費・広告料・手数料・
使用料など適当な費目に分けて記入し、備考に積算内訳を記載してください。

※記入欄に書ききれないときは、別紙として添付してください。